



自閉症・情緒障害特別支援学級における 自立活動の指導の充実



～子どもの姿から、中心的な課題を明らかにするために～

自立活動は、一人一人の子どもが自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善したり克服したりしようとする取組を促す教育活動です。指導に当たり、個別の指導計画を作成する際には、子どもに見られる困難さの背景にある要因を考え、様々な課題を整理して中心的な課題を明らかにし、指導目標や具体的な指導内容を設定することが大切です。

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する子どもたちには、他者とのやり取りや暗黙のルールの理解、急な予定の変更への対応等に困難さが見られる場合があります。そして、その背景にどのような要因があるのか、分かりづらいことがあります。

そのため、自立活動の指導を考えていく際には、学校生活全体を通して見られる子どもの様々な姿から困難さの背景にある要因を考え、中心的な課題を明らかにすることがより一層大切になります。

子どもの姿から、中心的な課題を明らかにするためのポイント

個別の指導計画の作成手順

- 1 実態把握
- 2 中心的な課題の抽出
- 3 指導目標の設定
- 4 必要な指導内容（項目）の選定
- 5 具体的な指導内容の設定

ポイント1

つまずいている中でもうまくいっているところを見付けましょう。



特定の場面に限らず、学校生活全体を通して子どもの姿を捉えます。その際、つまずいている中でもうまくいっているところを見付けることがポイントです。つまずきの姿は、障害によるものだけでなく、子どもが置かれている様々な環境が要因となって現れる場合もあります。そのため、学校生活全体を通して見ていくと「こんな場合ならできる」というときがあるかもしれません。

つまずきの姿を捉えたら、「つまずいている中でもできている場面はないかな」と考えてみましょう。

ポイント2

つまずいている中でもうまくいっているのはなぜかを考えましょう。



中心的な課題を明らかにするために、子どものつまずきの姿の背景にどのような要因があるのかを考えます。その際、つまずいている中でもうまくいっているのはなぜかを考えることがポイントです。うまくいっている理由を考えてみることで、これまで気付かなかった新たな要因が見えてくる場合があります。

つまずいている中でもうまくいっている姿を捉えたら、「なぜ、できているのかな」と考えてみましょう。

つまずいている中でも
うまくいっているところに
着目することが大切なんだね。



実態把握から中心的な課題の抽出までについて ポイントを踏まえて考えてみましょう

次のようなつまずきの姿が見られるAさんを例に考えてみます。

授業中、離席が多く学習に取り組むことが難しい。

やる気が出ないのかな？
注意散漫で集中できないのかな？
中心的な課題が見えてこないな…



ポイント1

つまずいている中でもうまくいっているところを見付けましょう。



Aさんの近くに行き、教科書の問題が載っている箇所を指し示しながら「この問題を解きましょう」と伝えたときは、席に座って取り組んでいたな。

ポイント2

つまずいている中でもうまくいっているのはなぜかを考えましょう。



具体的に何をするかを示したから、分かりやすかったのかもしれない。
やることが分かったから、取り組んでいたのかもしれない。

つまずきの姿の背景にある要因は…

言葉だけの指示では、やることが分からなかったのかもしれない。

中心的な課題は…

活動内容などが分かりやすく示された状況の中で、自分のやることを確認しながら学習に取り組むことができるようになること。

つまずいている中でもうまくいっているところに
着目して考えていくことで、子どもへの理解が深まり、
よりよい指導につながっていくんだね。



ヨウコ先生の取組（小学校の例）

ヨウコ先生は、初めて特別支援学級を担当し、小学4年生のBさんの担任となりました。Bさんは次のような児童でした。

Bさんは、本や映画が好きで、日頃からお薦めの本や映画について教師に伝えてくれる、とても感性が豊かな児童です。清掃活動などに取り組んで、周りの人の役に立てたことを喜んだり、気持ちが安定している場面では、友達に穏やかな気持ちで優しく接したりすることができます。

一方で、ゲームなどで負けてしまうと、怒ったり泣いたりする様子が見られ、気持ちを切り替えることが難しくなります。また、ゲームの中で、Bさんに注意する友達に対して、乱暴な言動が見られることもあります。

そのようなBさんですが、教育相談用のアンケートの「将来、何になりたいですか？」という質問項目に、「優しい人になりたい」と書いていました。

このようなBさんの中心的な課題を明らかにしていきます。ヨウコ先生は、まず、次のようなBさんのつまずきの姿に着目して、その背景にある要因を考えていきました。

ゲームに負けると怒ったり泣いたりし、気持ちを切り替えることが難しい。

注意する友達に対して乱暴な言動が見られる。

ポイント1 つまずいている中でもうまくいっているところを見付けましょう。

気持ちが切り替わらないときに本を読むことを提案すると受け入れていたな。そして、それを読んでいるうちに気持ちが落ち着いてくることがあったな…

Bさんが落ち着ける場所で、Bさんの気持ちを受け止めながら話をする、自分の行動を振り返っていたな…

ポイント2 つまずいている中でもうまくいっているのはなぜかを考えましょう。

好きなことに取り組んでいると、気持ちが安定するのかもしれない。

自分の気持ちを分かってもらえたと思えたから、行動を振り返ることができたのかもしれない。



Bさんは、「優しい人になりたい」と思っているけれど、自分に自信がなくなると、うまくできない自分を受け入れられず、乱暴な言動をとってしまうのかもしれない。

Bさんの行動の背景にある新たな要因に気付いたヨウコ先生は、さらに考えました。

Bさんが「やりたい」と思う活動を授業の中に設定することで、自分の気持ちを伝えたり、行動を調整しながら活動したりする経験を積むことができるのかもしれない。

そして、Bさんのいろいろな気持ちを十分に受け止めるようにすることで、Bさんが落ち着いて過ごすことのできる時間が増えてくれば、少しずつ自分から気持ちや行動を調整できるようになっていくかもしれない。

ヨウコ先生は、このようにBさんの姿から考え続け、中心的な課題を「**自信をもって取り組める活動の中で、気持ちや行動を調整できるようになること**」としました。

タカオ先生の取組（中学校の例）

タカオ先生は、新しい学校へ赴任し、中学1年生のCさんの担任となりました。Cさんは次のような生徒でした。

Cさんは、真面目な性格で、「ルールを守ろう」という気持ちがとても強い生徒です。友達がルールを守ることができていないと強い口調で言い過ぎてしまい、トラブルになることがあります。一方で、Cさん自身の言動について教師から指摘を受けると、「先生は怒っている」「自分に悪口を言う」などと捉え、言われていることに耳を傾けることができず、活動そのものに取り組みなくなってしまうことがあります。

Cさんには「友達と仲良く過ごしたい」という思いがあり、少人数の友達同士の中では、リーダーシップを発揮する様子が見られています。

このようなCさんの中心的な課題を明らかにしていきます。タカオ先生は、まず、次のようなCさんのつまずきの姿に着目して、その背景にある要因を考えていきました。

ルールを守ることができていない友達に対して強い口調で言い過ぎてしまい、トラブルになる。

教師からの指摘に耳を傾けられず、活動に取り組みなくなる。

ポイント1 つまづいている中でもうまくいっているところを見付けましょう。

落ち着いているときに、友達との関わり方について「こうしたらどうかな？」と具体的に話すと、その後の行動が変わっていたな…

ボードゲームをやっているときには、友達のことを考えた行動が見られていたな…

担任との一対一の授業では、担任の言葉を素直に受け入れていたな…

ポイント2 つまづいている中でもうまくいっているのはなぜかを考えましょう。

否定せず、具体的に助言すると受け入れやすいのかもしれない。

ゲーム中でのやり取りは友達との関わり方が分かりやすいのかもしれない。

周りからどう思われているか気にする必要がないから、素直に受け入れられるのかもしれない。



Cさんは、周りの人とのよい関わり方については理解できるけれど、「ルールを守ろう」という気持ちが先に立ち、友達の気持ちを考えて行動することが難しいのかもしれない。そして、「自分はしっかりやっている」という気持ちもあり、友達の前で教師から指摘を受けることを恥ずかしく思うのかもしれない。

Cさんの行動の背景にある新たな要因に気付いたタカオ先生は、さらに考えました。

教師との一対一でのやり取りを大切にすることで、自分や相手の気持ち、人との関わり方について具体的に考えることができるかもしれない。また、少人数での活動を設定することで、友達とうまく関わることができたという成功体験を積むことができるかもしれない。そうすることで、自己理解を深めながら、周りの人との関わり方の幅を広げていけるかもしれない。

タカオ先生は、このようにCさんの姿から考え続け、中心的な課題を「教師とのやり取りを通して人とのよりよい関わり方を考えたり、少人数での活動の中で友達とうまく関わることができたという経験を積んだりすること」としました。

その時々Bさんの思いに寄り添い指導を進めたヨウコ先生



自立活動の授業では、Bさんの「やりたい」と思う活動に取り組む中で、自分の気持ちや行動を調整しながら活動する様子が見られました。しかし、学校生活の中では、なかなかうまくいきませんでした。教師側のルールに乗せようとすればするほど、Bさんの気持ちが離れてしまうことの連続でした。

そこで、「今のBさんの思いはどうか」と考えてBさんに関わるようにしました。その時々Bさんの思いを十分に共有できたときには、担任からの提案にも応じてくれていたように思います。そして、友達とトラブルになることがあっても、担任とのやり取りの中で気持ちを落ち着けることができると、自分の行動を振り返り、「どうしたかったか」という自分の気持ちを伝えてくれることが増えてきました。

<持久走大会に見られたBさんの成長の姿>

持久走大会では、上位入賞をしたいという気持ちが強く、コースをショートカットしたり、思うような順位でないと順位表を破いたりする様子が見られていたBさん。

小学6年生の持久走大会でのこと。5年生のときと同じようにショートカットしそうになりましたが、立ち止まりじっと考える様子が見られました。伴走していた担任はしばらくその様子を見守っていました。すると、Bさんは自分からコースに戻り走り続けて、完走することができました。息を切らしながらBさんは担任に向かって高く手を掲げました。そこで、二人でハイタッチ。「やったね」「うれしいね」と喜びを共有できた瞬間でした。

上位入賞ではありませんでしたが、自分で気持ちや行動を調整し、「できた」という充実した気持ちだったのではないかと感じています。



Cさんと関わりのある教師同士で連携しながら指導を進めたタカオ先生



友達とうまく関わることでできていたボードゲームにおいても、質問カードに答えられないとそのカードを隠したり、友達の答えが納得できないと、責めるような言動が見られたりする場面がありました。そのような場面では、Cさんの様子を見守りながら、友達への伝え方などを具体的に助言するようになりました。

また、学校生活の中で、Cさんと関わりのある交流学級の担任や教科の担当者等に、Cさんと関わる上で大切にしていることについて伝えるようになりました。そうすることで、担任以外の教師もCさんと友達との間に入って関係をつないだり、人との関わり方でよかったところをCさん自身に具体的に伝えたりするなど、連携しながら指導を進めることができるようになってきました。

<人との関わり方に見られたCさんの成長の姿>

中学3年生になる頃、Cさんの人との関わり方に成長が感じられるようになりました。

ボードゲームでは、自分が引いた質問カードに答えることができないうと、「〇〇だったらどう？」と友達に意見を求めるようになってきました。そのような場面ですらどう対応すればよいか分かるようになっただけでなく、「安心して発言していいんだ」とCさん自身が思えるようになったのではないかと思います。

また、教師からの指摘には抵抗感をもっていたCさんですが、困ったことがあると自分から教師に助けを求めようになりました。自分は何に困っていて、どのようにすればそれが解決できるかが分かってきたのだと思います。少しずつ、自己理解が深まりつつあったのではないかと感じています。



子どもの姿から考え続けましょう

どんなに丁寧に実態を把握し、それに基づいた指導目標や具体的な指導内容を設定しても、実際に指導を行ってみると、子どもが主体的に取り組もうとしなかったり、子どもの変容がなかなか見られなかったりするなど、うまくいかないこともあります。

だからこそ、教師は、**子どもの実態を絶えず捉え直しながら**、「指導目標や指導内容は子どもに合っているか」、

「子どもへの教師の関わり方はこれでよいか」と**考え続けていく**ことが大切です。



子どもが安心して力を発揮できる環境をつくりましょう

一人一人の子どもが、障害による困難を改善したり克服したりできるようにするためには、自立活動の指導だけでなく、子どもが安心して自分の力を発揮できる環境が必要です。

教師は、自立活動の指導で取り組んでいることや身に付いてきた力、その力を発揮できる環境等について、**交流学級の担任や教科の担当者等と共有し**、指導上の配慮や手立てに生かすようにしましょう。



教師同士で子どもへの理解を深めていくことが、**子どもが安心して自分の力を発揮できる環境づくりの一步**となります。

※本資料はQRコードからダウンロードできます。



栃木県総合教育センター 教育相談部
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町 1070
TEL 028-665-7211

<http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>

発行 令和4（2022）年3月

